

Ⅲ－（１）地域の活力と交流戦略の推進

- ◎新たな成長産業の育成と雇用の確保
- ◎みなとまちイメージの発信，中心市街地活性化
- ◎地域の魅力の掘り起しと国外からの誘客

これまでの取組み状況

多様な雇用の場づくり

<既存産業の活性化と成長産業の育成>

中小企業や各地区の中心商店街・地域商店街を支援し，地域経済の活性化を図る取組みを進めるとともに，新たな雇用の場を創出するため，企業立地基本計画の指定4業種を集中的に支援し，活力ある企業の立地を促進。

- 西蒲区に航空機エンジン部品共同工場を誘致⇒約50人の新規雇用を創出
- コールセンターなど高度ITシステム・利活用関連企業の立地⇒約2,300人の雇用を創出
- 新潟IPC財団ビジネス支援センター開設(H25コンサルティング相談件数 約1,000件)

<障がい者雇用の促進>

障がい者の地域生活の移行に向け，グループホームへの支援を進めるとともに，障がい者就業支援センター（こあサポート）設置運営，就業能力向上支援，障がい者雇用推進融資事業など，雇用に向けた取組みを推進。

- 本市の福祉政策に関心を持った企業(アイエスエフネットグループ)と「障がい者雇用促進創造プロジェクト協定」を締結 ⇒「匠カフェ」のオープン

<女性が働きやすい環境整備>

待機児童ゼロ対策（私立保育園建設費補助）や放課後児童クラブの整備を進めるとともに，病児デイサービス，休日保育の拡充などにより，働く意欲と能力のある女性が社会で自己実現を果たすことができる環境づくりの推進。

- 待機児童ゼロの堅持

本市の魅力づくりと交流人口拡大に向けて

<交流人口の拡大に向けた取組み>

「G8労働大臣会合」や「APEC新潟食料安全保障担当大臣会合」などの大規模国際会議や，食の国際見本市などの開催を通じ，本市の魅力国内外に発信する取組みを推進。

また，会津若松市，京都市，佐渡市などとも連携し，国内はじめ，北東アジア，東南アジアなどからの外国人誘客を促進。

このほか，更なる交流人口の拡大を図るため，MICEの誘致を促進するとともに，H25年10月に新潟市文化・スポーツコミッションを設立し，文化・スポーツイベント等の誘致を積極的に展開。

- 観光入込客数の増加（H19：1,310万人 ⇒ H24：1,670万人）

<まちなかの再生>

「中心市街地活性化基本計画」の推進や「まちなか再生本部」の設置など，中心市街地を賑わうまちなかとして再生する取組みを推進。

- 駅前・万代・古町を連動させた「都心軸リノベーション」実現に向けた取組みに着手

<魅力の創造・発信>

文化芸術が有する創造性を活かしたまちづくりを進め，将来にわたってまちが活性化することを目指す「文化創造都市」に向けた取組みを推進。

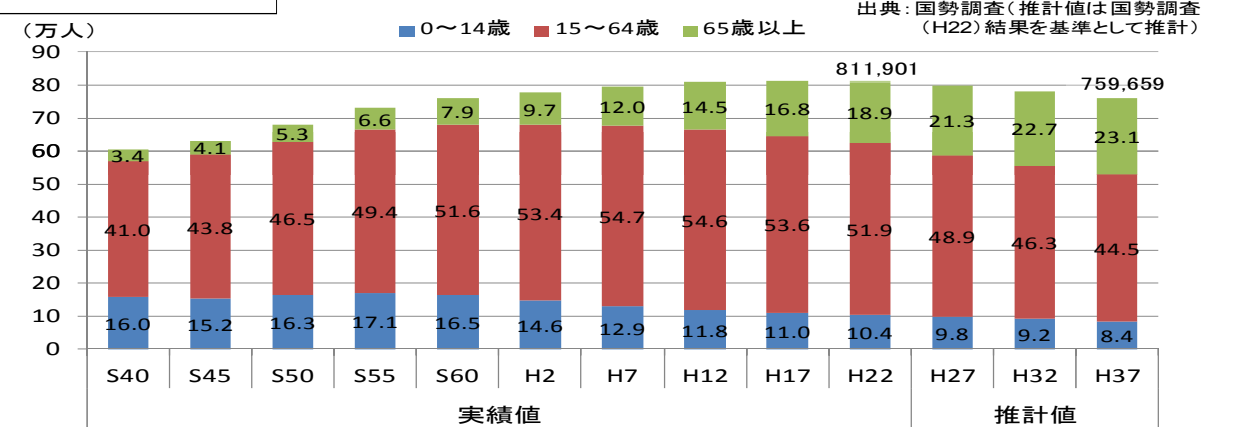
- 水と土の芸術祭，マンガ・アニメの振興，ラ・フォル・ジュルネ，潟の魅力，ユネスコ創造都市ネットワーク（食文化分野）認定推進など
- ⇒文化庁長官表彰（文化芸術創造都市部門）

また，開港150周年に向け，市民自らが将来に向けたビジョンを描き，その実現に向けて取り組む活動の支援や，万代島にぎわい空間創出の取組みに着手。

本市を取り巻く状況

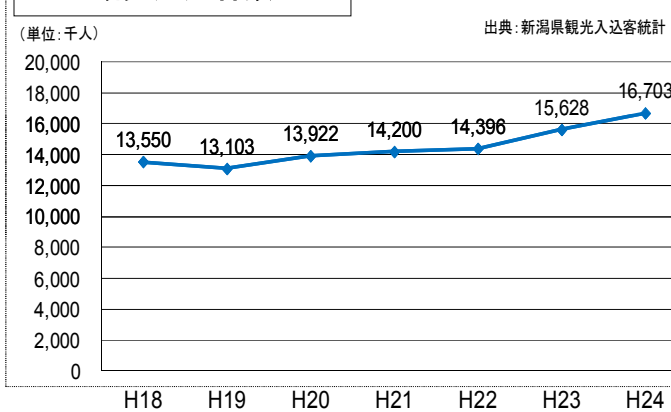
●生産年齢人口（15～64歳）は，平成37年に約7万人も減少。

将来推計人口



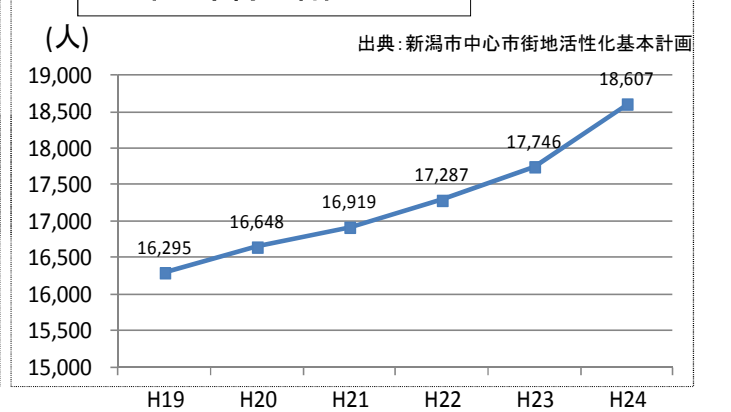
●観光入込客数は年々増加。

観光入込客数



●中心市街地居住人口は年々増加。

中心市街地居住人口



取り組むべき課題と今後の方向性

◎Iターン・Uターン・新たな成長産業の育成

▷生産年齢人口の減少への対応として，首都圏などからのIターン・Uターンへ結びつけるため，新たな成長産業を育成し魅力的な雇用の場を創出することが必要。

◎多様な雇用（女性，障がい者など）

▷社会の活力を維持するため，女性や障がい者の方など多様な方々の雇用を促進していくことが必要。

◎交流人口拡大とにぎわい空間の創出，創造都市

▷国内外の交流人口拡大にむけ，にぎわい空間の創出や，コンベンション・イベントなど，新潟市に人を引きつける大規模な取組みが必要。

▷これまで地域資源として活用してきた歴史，文化については，他都市との比較優位をしっかりと把握し，戦略的に伸ばし活用していくことが必要。

また，各地域の個性，歴史，文化に根ざしたまちづくりを進めながら，その魅力を内外に発信し，それぞれのまちなかの活性化に向けて取り組むことが必要。